

狸谷石不動たぬきだに いし ふどう

〔一乗寺村天王より良十町余にあり、行路嶮岨なり。高さ二丈深さ二丈許の石窟あり、中に石像の不動尊を安置す、長五尺許、木食上人正禪もくじき しやうぜんの立る所なり。窟の口に石の扉あり、高さ四尺許厚さ一尺余、表に木食正禪明厚と鐫す。靈験いちじるくしてつねに詣人多し、此地四隣峭壁にして谷深し、樹林翳鬱として白日を蔽す〕

白鳥越はくてうこえ

〔同所の東にあり、上古の往還道にして、是より叡山東坂本穴太村へ出る、名古地越といふ〕

花之谷はなのたに

〔同所の北にあり、此所に檣多し故に名とす。叡山の衆徒一夏中勤行の檣をこゝより伐出し、此辺の土人公役として山門へ送るなり〕

曼珠院まんじゆゐん

〔同所東北にあり、御宗旨天台にして山門の座主なり〕御宗派慈覚大師より相承して、天慶年中に山に於て關き給ひ、御門跡は是算法親王を初めとす。中古より寺を禁裏の側に遷れ、明暦二年良尚親王今の地に移し給ふ。〔竹内御門跡と称す〕

天満宮 〔当院後山にあり、祭神菅公、洛陽の菅大臣は此御門主兼帯所なり。当山絶景にして奇觀の地なり〕

〔むかし此所に月林寺といふ、叡山三千坊の一寺あり。日本紀略云、康保四年二月廿八日左大臣実頼公月林寺にて花を

翫び給ふ」

〔拾遺抄云、古今の作者幽仙律師延曆寺別当に補す、拜堂の為に登山の日坂本月林寺に於て頓滅す〕

清慎公月林寺にまかりけるにおくれてまうできてよみ侍る

拾遺

昔我をりし桂のかひもなし月の林のめしにいらねば

文章生 藤原俊生

鷺杜

〔曼珠院の西にあり、平林にして中に社あり。祭神鬚咫天王。修学寺村生土神とす。例祭は

鷺森／鬚■天皇／拾玉・ひえの山は冬こそいとどさびしけれ雪の色なる鷺の杜より 慈鎮